

Nutrient reference values for bioactives: new approaches needed? A conference report

Hans Konrad Biesalski • John W. Erdman Jr. • John Hathcock • Kathleen Ellwood •
Stephen Beatty • Elizabeth Johnson • Roberto Marchioli • Lotte Lauritzen •
Harry B. Rice • Andrew Shao • James C. Griffiths

Eur J Nutr (2013) 52:1–9

DOI 10.1007/s00394-013-0503-0

生理活性物質の栄養成分基準値：新たなアプローチは必要か？ 会議報告

要旨： 栄養素は、「必須」と「非必須」とに分類され、後者は生理活性物質とも呼ばれている。必須栄養素のない食事は、明らかに栄養欠乏の状態となり、軽度から重度の生理的減退を引き起こすことがあるが、生理活性物質の場合はそれが食事に含まれていないと、最適健康レベル以下の状態を引き起こす。Codex（国際食品規格）および多くの国の規制機関は、毎日摂取すべき推奨の必須栄養成分の大半について栄養成分基準値を定めている。米国医学研究所（IOM）はデータに応じて4つのDRIの定義付けを行っている。すなわち、EAR、EARから派生するRDA、EARを確認する適切なデータのない場合の栄養素のためのAI、そしてULの4つである。因みに、米国ではRDAから派生したDVというラベル数値があり、これは年長の子供とほとんどの成人に対して適用される。Codexにおいては、DVに相当する基準としてNRV（栄養素摂取目安量）が使用されており、食品ラベルにはこれを基に計算されたパーセント値が記載される。IOMに関する文書においては、今日まで必須栄養素と指定されている物質に対してのみラベル数値を表示できると、する記載はない。確かに、FDA（米国食品医薬品局）は、植物繊維に関してIOM AIに基づく植物繊維のラベル数値を定めている。本会議では、NRV（ルテイン、ゼアキサントン、長鎖n-3系多価不飽和脂肪酸）を含有する生理活性物質のベストサンプルから2つをとりあげ、それらの定義付け、コンセプト、データに関して考察を行う。

キーワード： 栄養成分基準値、非必須栄養素、適度な摂取、ルテイン、ゼアキサントン、長鎖n-3系多価不飽和脂肪酸